

会議名	令和7年度坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議
開催日時	令和7年8月22日（金） 午後2時～
開催場所	坂出市役所本庁舎 2階大会議室
出席委員	長谷川 修一、國時 忠能、中井 今日子、多田 篤史、中橋 恵美子、 林 陽子、橋崎 正伸

### 会議の経過および発言要旨

#### 1. 開会

#### 2. 副市長挨拶

#### 3. 報告

昨年度、第3期総合戦略について素案の承認をいただいたが、その後パブリックコメントを実施し、意見の提出がなかったため、原案どおり策定。本年4月1日より計画期間がスタートしている。本日の会議内容は、令和6年度実績を踏まえた第2期総合戦略の振り返りとなる。

#### 4. 議題

- (1) デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について
- (2) 第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について

#### ●会長

それでは、議題（1）デジタル田園都市国家構想交付金事業等実施報告について、事務局より説明願いたい。

#### ○事務局

（資料1-1、1-2により説明）

●会長

ただいまの説明について、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

●委員

図書館は駅前の施設に移動すると聞いている。3か月の子どもに絵本をプレゼントする事業は継続されるのか。

○公民連携課長

今後の運用については施設運営事業者と話し合いを進めていくが、ブックスタートやセカンドブックサービスといった今ある事業についてはなるべく継続する方針で考えている。

●委員

Bizの相談件数は上がっている中で、新規事業件数はずっと0件という結果が続いている。私も立ち上げの経緯や必要性については聞いているが、なぜ相談件数がこれだけ増えているのに新規の件数が上がらないのか、また費用対効果を考え、今後のBizの在り方について市としてどのように考えているのか伺いたい。

○産業観光課長補佐

地域課題解決分野については社会問題をビジネスで解決する、いわゆるソーシャルビジネスにおいて課題解決の分野があればカウントするということが当初は設定した。広い意味での課題解決、例えば市民の方からよく言われる、駅前に食べる場所がないといった部分については、昨年も1件飲食店がオープンしており、広い意味での課題解決としては件数に入れてもいいと考えている。ただこの項目でいうと、もっと狭い意味で設定しているため、その分野に対する件数がなかったのが現状である。費用対効果についても、指標となるのが相談件数であるが、令和6年度の相談件数が多かったから令和6年度で産業を生み出す成功が多かったのかといえばそうではない。相談件数が多いことによって着実に何かスタートしており、今後、数年先を見据えて坂出の企業が成長していくといった意味合いも持っている。目に見えてすぐの効果を出すのは難しいが、その中でも市内の企業件数は3割ほど上昇しており、一定の効果はあったのではないかと考えている。

●委員

先ほどの続きになるが、地域課題解決分野での新規件数がずっと0件と続いており、その状況や結果を鑑みたくて令和6年度に5件の目標を設定している。その根拠について期待値も含めて教えていただきたい。

○産業観光課課長補佐

Bizの立ち上げ当初から企業支援はあったが、地域の課題を解決するという意味で5件程度あればという期待値で目標を設定した。実際に地域課題を解決している分野もあるかもしれないが、相談があったうち、どの企業が達成しているのか、追っていけば分かるかもしれないが表面上に出てこない。

●委員

5件と目標を定めたが、結果的にそういったみえてこない部分があるので、実績は0件になったということか。

○産業観光課課長補佐

はい。今後、目標の立て方を考える必要はある。

●会長

他になければ、「Bizを中心とした地域内チャレンジ促進事業」および「Digi田さかいで再生プロジェクト」、「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」については有効であったと判断してよろしいか。

●全委員

有効であった。

●会長

それでは有効であったと判断させていただく。

●会長

それぞれの事業について、改善できる点や評価できる点等あれば挙手いただきたい。

●委員

先ほどもあったように、目標の立て方について、表現方法を変える等の工夫が必要である。できていないことが続いているように見え、これは無駄ではないのかと市民から追及される可能性もある。そのあたりも含めて細かくするのか、内容を変えるかしたほうが良いと思う。

○産業観光課長補佐

今後、参考にさせていただく。

●会長

続いて、第2期坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について事務局の説明を求める。

○事務局

(資料2-1、2-2により説明)

●会長

ただいまの説明について、質問、意見等はないか。

●委員

16ページの地震津波対策事業について、最近も他県で津波の警報が出たこともあり、津波対策は重要と考えている。職場が港に近いこともあり、注視している。10年ほど前になるが、坂出市における港湾で働く者の避難場所を確認したら、聖通寺山だった。30分以上かかるが香川県は津波到達に2時間かかるから大丈夫といった説明だった。そこまで逃げるとなると、危機感が薄れてしまうのではないかと危惧している。目標値に対しての達成率が39.9%ということで、今後どのような計画とスピード感で実施していくのか教えていただきたい。

○港湾課長

南海トラフを想定し、香川県が整備の優先順位の考え方を取りまとめた「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」に基づいて事業を実施したが、入札不調による計画の見直し

に時間を要し、なおかつ当初の想定より事業費が大きくなり進捗に遅れが生じた。今後も必要な事業と認識しているため、予算要求含め、計画期間は過ぎているが、早く完成できるように取り組んでいきたいと考えている。

●委員

坂出港は坂出市が港湾管理者だが、津波対策は地方自治体が行うものなのか。それとも国が直轄で行うものなのか。予算はどこから来るのか。

○港湾課長

香川県の計画に則って進めるが、大規模な事業内容のため、国費や県費、市費で財源を賅っている。

●委員

計画通りに進めても数年かかると言われたが、南海トラフが起きる可能性も非常に高まってきた。香川県の津波の想定は低い、想定外のことも起きるので、できるだけスピーディに、安心安全に、入口から止めるということから考えると津波対策は非常に重要と考える。

●会長

国土強靱化対策で向こう10年に20兆円ほどの予算がついたと聞いたが、今後の展望はあるか。

○港湾課長

事業自体は国土強靱化にかかるため、10年配分はしてもらっている。引き続き、事業の完成に向けて国に要望していく。

●委員

坂出市が県内のほかの自治体とくらべて「ここがすごい！」といった、ほかにはないものがあるということ、市民にもわかりやすく伝えることが大事。目に見えない空気感でなんとなく、よそがよく見えてしまっている気がする。目標をもって取り組んでいる中でも、他自治体よりすごいということをもみんなが話せるようなまちになればいいなと思っている。

一方で8ページの子育て支援について、坂出市の数字ではないが、香川県でも過去5年間で生まれる子どもの数が22%減少している。母数自体が2割以上減っているなかでの目標数値の設定ということを考えていかないといけない。子育て支援施設拠点や一時預かりは0～2歳までがターゲットとなるため、母数はさらに減ってきている。坂出市は、全国的にも素晴らしい取り組みとして妊娠8か月の妊娠相談をルール化した。1か月に25人程度の妊婦さんが相談に来るが、うち1割以上が外国の方であり、日本語が話せない人もいて、ケアの難しさを感じている。モスクがあるということで高松から引っ越してきた方もいる。日本全体で働いている人の29人に1人が外国人というなかで何が困るかという日本語学校である。10ページに日本語教室の開催が64%とあるが、日本語教室で丁寧にケアしてもらって、地域になじみ、坂出市に貢献してもらえらるようなお互いに理解し合える取り組みが必要と感じている。

#### ○秘書広報課長

近年、坂出市でも外国人の人口が1,500人、30か国以上の方が生活している。これまでも日本語教室ということで坂出市に来られた外国人に向けての教室は実施していたが、30か国以上となると取り組み的に違うなと感じている。外国に行っても外国語は教えてくれないが、地域全体で許容してくれているといった現状がある。言葉がわからなくても受け入れる体制をつくるのが行政の役目だと考えており、広報でも新しい取り組みとして「やさしい日本語」というカタカナではなくひらがな表記を実施しており、ホームページでもなるべくひらがなを使って外国人向けの情報を発信している。またホームページは多言語で要約できるため、外国人は母国語で情報を得ることができる。坂出市民の方の受け入れ態勢をとっていただく啓発活動として今年度、地域おこし協力隊にて「kopi.」という日本語サロンを立ち上げた。外国人の交流の場をつくり、子育て世代の外国人のお母さん方も参加できるように考えていきたい。

#### ●委員

「kopi.」は市秘書広報課で行っているのか。

#### ○秘書広報課長

秘書広報課のなかに国際交流係があり、地域おこし協力隊による外国人向けの移住定住を含めての取り組みである。

●委員

地域おこし協力隊は何名いるのか。

○秘書広報課長

3名である。

●委員

防災の部分で、市立体育館にエアコンがついたが、二次の避難場所の環境整備について坂出市はどのくらい進んでいるか。また、このKPIの中に挙げる必要があるのかどうか。

○危機管理課長

避難場所として市内の小学校や中学校を指定しているが、能登の地震発生以来、避難所の質の向上が強くいわれており、空調設備の整備やトイレ、体育館内でのパーテーションや簡易ベッドといった質の向上が求められている。備蓄物資については国から早急な整備を指示されており、今後何ヵ年かにわけて整備を予定している。

●委員

目標達成していないが、11ページの就職説明会や14ページのラジオ体操の普及事業といった、個々には良い事業をされていて、周知が非常に難しいと思われる。どうやったら市民の方に受け取ってもらえるのかというところは大きなテーマだと感じている。周知方法としてはSNSがすべてになりつつあるが広報のPRについて考えを聞きたい。

○秘書広報課長

SNSでの周知について思い悩んでいるところではある。カテゴリーを絞った発信はSNSが広がりやすい傾向にあるが、役所の情報は多岐にわたるための得ず、情報にたどり着かないのではないかと分析している。どうやって必要な行政情報を必要な人々に届けるかは考えている。インスタグラムはイメージを発信するものであり、役所は正確な情報を詳細に届けたいため葛藤がある。イメージの発信は市だけでなく、市民でも発信できるためサポートをお願いしたい。

## ●委員

市が実施している事業のなかで、親子体験クルーズが行われた。先日、小学生のときにそういった体験をした子どもが高校生になり、海上保安署員になりたいと海上保安署にいらっしやったという話を聞いた。手土産のなかに各企業のロゴ入りグッズが入っており、参加した小学生がひよっとしたら就職活動をするときまで持っていてくれるかもしれないというつながりを感じた。将来のある子どもたちにできるだけ坂出市のいい印象を与えられる活動を続けてほしいと感じる。

## ○産業観光課課長補佐

ハローワークは従前から夏休み期間に小学生向けの簡単な職場体験を実施していたが、今年から坂出市とハローワークが協定を結んだこともあり、坂出市が企業や関係各所にかけて小学生をターゲットとしたキッズウィークと称したイベントを行った。キッズニアをイメージしたもので、市内の8社ほどの企業に依頼し、親子で体験できるもので大変好評だったため、今後も継続していきたい。

## ●会長

非常に良い取り組みだと思う。就職フェアは大学生向け、就職説明会も大学生向けであるが、大学生ではもう遅いと思っている。香川大学のうち県内出身者は3割程度。県外は県外で就職し、県内の人でも一度県外に出てしまう傾向がある。高校生までの香川県を出ていく前の段階で、地域の会社を知ってもらうのはとても良いこと。高校も総合的な探求の時間をとって活動しており、地道にやることが大切と考える。

もうひとつ、まち歩きは参加者も案内者も年配が多い。坂出商業高校の生徒がツアーを考え随行する企画もあったが、自分でツアーを考え、お客さんに来てもらうという体験をすることで地元に関心を持つし、地元に戻って仕事がしたいと思うようになる。ぜひ大学生になる前の世代に力を入れていただきたい。

## ●委員

中学生の子どもが、坂出には何もないと言って綾川イオンに行ってしまう。小中高のうちで坂出は素敵だと思える催しをしていただけたら。まちあるきがどうしてこんなに減っているのだろうと疑問を感じている。島が注目されがちだが山も魅力的だと思うので、復活させつつ、小中学生が興味を持てる内容になれば坂出が好きになってくれるのではないか

など思う。

#### ●委員

まちあるきは民間企業が行うまちあるきミッケもある。有料でまちあるきする動きもあり、この計画とリンクさせることもあればいい。中小企業家同友会の中讃第二支部からレポートが入っていたが、井上食料品店といった民間団体が頑張っているところとも坂出市がうまくリンクしたら事業としてカウントできるのではないかと考える。アオハルは県内高校生を対象とした職場経験の取り組みを行っており、JCや他でも同じような取り組みがあると思うのでうまく情報を把握し、もれなくダブリなく発信できるとよい。SNSの観光情報に対するフォロワー数の目標値が1,200件とあるが、その数字でいいのか。中橋産業は1万フォロワーがいるが、毎日のように香川県に特化した写真をアップして、ハッシュタグで拡散している。なぜ建築会社が観光写真ばかりあげるかという、意外なことに会社や採用の問い合わせがくるらしい。ということは観光を仕事にしている観光協会が民間の片手間でやっているところに負けてはいけけないのではないかと感じる。目標数値が1,200件は足りないのではないかと感じる。

#### ○産業観光課課長補佐

目標数値については少ないということで認識を新たにしているところである。フェイスブックだけに限る必要はないためインスタグラムへの移行も考えていきたい。インスタグラムは現在1,900フォロワー数なので、フォロワー数も含め、もっと更新してみなさんに見ていただけるよう努力する。

#### ●委員

循環バス運行事業について、路線バスの利用者数の増加幅は循環バスの利用者数の減少幅を上回り、1 便当たりの利用者数は増加した、とあるが、その結果として達成率 81.3%という数字が出ている。公共交通の利用者は高齢者が多いと思うので数年の期間を経て減った可能性もあるが、ざっくりいうと相殺できていない。今後ドライバー不足も含め、利用者数に囚われないモニタリングとは具体的にどのようなものか。また、中高生向けのサマーパスは今後の路線バスや循環バスの運営にも反映されていくのか。

○政策課長

循環バスは令和6年度に比べ、利用者が1万人ほど減っている。路線バスは1.2万人増えており、ゾーン運賃の導入でまんべんなく増えたのではないかと認識している。利用者数に囚われないモニタリングについては今後、自動運転も視野にいれていかなければいけないと考えている。中高生のサマーパスは昨年度から実施しており、販売価格500円で夏休み期間中、TicketQR決済が導入されている路線バス・循環バス・デマンドタクシーが利用できるキャンペーンであり、7月末時点で102名の方の利用があった。

●委員

サマーパスの情報は高校生の共有が早かったから、募集が多かったのか。夏休みというと定期に使えるわけでもなく、利用は少ないイメージだが。

○政策課長

夏休み期間中は学生の公共交通利用が減るため、TicketQRの普及と積極的な公共交通の利用で地元への愛着をもってもらうことも目的としている。

●委員

市民割についてもみんなの共通認識としてあり、みなさんがフルで活用できるくらいに認知はされているのか。知らなかった、という方はいなかったのか。

○政策課長

市民割はマイナンバーカードを購入時に提示することで利用でき、100円引きになる。市の広報やSNSで発信はしており、バス事業者に割引分を負担金で支払っているが、昨年度は130万の負担金を支払った。

●委員

130万という額では認知されているかの判断は私にはできないが、公共交通の利用者がこういったサービスをできるだけ多く知って活用いただきたい。また、便数が減ってしまうのは致し方ないが、アンケートやモニタリングの内容をうまく反映できるように地域おこし協力隊の方にコーディネートしてもらおう等、外の知識とすり合わせて坂出モデルを作っただけだったと思う。

## ●会長

その他としてなにかあるか。

## ●委員

第3期について、KPIの数値には出ていないが、全国的に不登校、引きこもりが増加している状況にあり、不登校の低年齢化が進んでいる。他自治体にはなるが小学1年から学校に行けない子どももいる。読み書きといった基礎ができないままであり、戻ることが難しいということで学校内でも課題を感じている。第3期の18ページにある未来を切り開く力を含む人作りの中で、学校に行くのが楽しいと答える児童、生徒の数という目標数値をパーセントで設定しているが、楽しいことばかりではないと思う。楽しいか楽しくないかもそうだが、そもそも学校に行けないお子さんがどのぐらいいるのかということは気になる点であり、目標数字にするのはおかしいかもしれないが、委員として把握ができればいいなと感じている。もう一点、毎回言っているが9ページにある審議会等における女性委員の割合目標が30%になっているが、県の目標率は40%なので類似項目の目標数値についてはある程度合わせてはどうかと思う。また、女性管理職の割合について、坂出市は係長級以上だが、世間的には課長級以上といわれている。修正しようがないとは思いますが、係長級以上が107%で目標達成としているうち、課長級以上の女性がどれくらいかということ参考資料に入れてほしい。少子化や暮らしやすいといった部分と女性が活躍できるという部分は非常にリンクしていると考える。女性の意見がすごく活かされているまちだということ坂出がPRできるためにも、ここにもう少し力を入れてほしい。

## ●会長

今回、第2期の進捗状況結果をKPIで見たが、KPIはほぼ達成したけど、やはり人口減少は止められないというのが現状。そこで第3期の総合戦略を作ったわけだが、これも最後に進捗状況の確認だけではなく、これでいいのか、もう少し検討しないといけないということがあるのかと、その都度考える必要があると感じた。また、これからこの第3期の総合戦略について様々な意見交換があると思うが、柔軟性が求められると感じた。

## 3. 閉会

### ○事務局

以上で、坂出市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を終了する。